

8月16日

サヨナラ原発福井ネットワーク

連絡先：越前市入谷町熊の手 山崎方

TEL 0901627118771 mail: kumanote@gn.fn.ne.jp

郵便振替口座：0078019140314



これ以上の過ちを繰返さないために

——サヨナラ原発をみんなの声に——

佐分利豊

日本社会は、広島、長崎、そして福島と、地域を壊滅させるほどの大規模な核被害を三度もこうむることとなりました。広島の原爆死没者慰霊碑には「過ちは繰返しませぬから」と記されています。再び大規模な放射能被害がもたらされるといふ過ちが繰返されることとなったのは、原発に関する正確な情報を秘匿し、「原発は安全」「原発がなければ経済が立ちゆかない」と強弁する一部のの人々による強引な原発推進によるものであったと考えます。地球の巨大なエネルギーに耐えうる構造物を作るなどあり得ないからです。

また、今回の放射能被害に対する賠償と復旧のための費用は放射能除染を含めれば数百兆円に上るとの試算が出され、健康と食への不安も広がる一方です。

福島の人々に対する十全な救済の手もさし伸べ

られず、いったい「経済が立ちゆく」とはどういったことを意味するものなのでしょうか。

今日の巨大化した社会システムにおける政策決定は、人々の正確な情報の共有にもとづく、十分な議論が尽くされた上でなされるものでなければなりません。原発による大規模な放射能被害の再発というこれ以上の過ちを繰返させないため、脱原発の声をあげるとともに、現況での原発なしでの電力供給力や、原発による発電コストなどの、原発をめぐる正確な情報の開示を求めたいと思います。

さらに、環境や化石燃料の有限性を考慮した再生可能エネルギーの開発・普及、あるいは脱原発に付随する原発労働者の再就職などを保障する産業政策などについての、丁寧な議論を積みあげていくことも求められるように思います。子どもたちの未来を守るため、サヨナラ原発の輪が広がることを望みます。



『サヨナラ原発福井ネットワーク』

を立ち上げました。

山崎隆敏

フクシマの直後に講演会を何度か開催しました。それと並行してパレードを2度呼びかける中で、そこに参加された方々から、パレードの継続と福井（嶺北）での脱原発の市民活動をすすめるネットワークをつくるうという声が出てきました。そこで、パレードや講演会に参加した皆さんにお集まりいただき、話し合いを進めてきました。

会の名称については、「原発」の文字を入れるかどうかで議論がありました。趣旨を明確にしつつ「頑固な反対派のイメージ」も避けられる名称をとということで、表記の会名となりました。

今後は、勉強会や講演会など、県民への啓発活動とともに、署名運動や行政への要請行動なども重要な活動となるでしょう。

私は、これまで「若狭ネット」のメンバーとして脱原発の活動を続けてきました。「若狭ネット」は、20年前の美浜2号機の蒸気発生器細管破断事故のあと、関西と福井の市民でたちあげたグループです。当時は、週末に美浜町を戸別訪問し、町民と対話する活動を続けました。このような運動が世論を変えていったというドイツの市民運動の話も参考にしました。

敦賀3・4号機増設の問題では、敦賀市に入り同様の活動をおこないました。新聞折り込みもひ

んぱんにおこなってきました。現在、常時活動している福井のメンバーは小浜市、若狭町、美浜町、敦賀市、越前市の総勢数人だけです。「若狭ネット」は、こうした活動のほか、その時々、原発の問題に関して技術的な検討・批判をおこない、県や国そして電力会社との交渉を続けてきました。

私は、これまで通り「若狭ネット」の活動も続けますが、今回誕生する新しいグループにも参加し、原発発のより広範な県民世論づくりの活動に取り組んでゆきたいと思えます。

私のもとに振り込まれた原発発の活動に対する皆さんからのカンパや会費の残高25万円は、そのまま新しい会に引き継ぐことにさせていただきますました。会計は、中嶋多恵子さんをお願いしました。



「原発発パレード」への呼びかけ —— 原発震災の危険 ——

中嶋多恵子

現在は、地球レベルで地震の活動期に入ったと言われています。日本人学生も犠牲になったニュージーランド地震が記憶に新しいところです。スマトラ沖大地震では数十万人が犠牲になり、神戸の地震では6000人以上の命が失われました。そ

の後も日本では、次々に、対馬近海（福岡県）、輪島（石川県）、新潟県と大きな地震が起き、今回の東日本大震災です。

私たちは、一体どれだけの犠牲者を出したら気づくのでしょうか。「地震大国の日本に原発は危険」であると。

原発54基が日本列島をぐるりと取り囲んでいます。フクシマの次に、何処で地震と原発事故が起きてもおかしくない状態です。若狭の原発が被災すれば、私達も強制的に避難させられますが、一体どこへ避難しろというのでしょうか。

今回の福島の事故を最後に、原発にサヨナラしましょう。原発発・ソフトエネルギーを基盤にした新しい国造りをしましょう。それを創るのは、私達一人ひとりの思いと行動です。

原発発に向けて全国で大きなうねりが起きています。国民は放射能におびえる必要のない国を望んでいます。福井からも発信しましょう。9月1日のパレードに集まりましょう。



自然は、先祖から譲り受けたものではなく、子孫からの借りもの…。

円居 敬子

自然もろとも人々の暮らしと健康を奪い取り、今尚、国境を越えて子どもたちの健康を蝕み続けるチェルノブイリ原発事故。25年間、原発事故の度、原発は危険、止めて欲しいと思いつつここまできてしまいました。

思うだけでは、批判するだけでは、何も変わりません。自然豊かな福井の暮らしを守り、子どもたちに受け継ぐために、ちよつと背伸びをして、今できることを……と、「フクシマと共に5・11パレード」に初参加。

あまりに危険な原子力発電をめぐる真実を学ぶこと&伝えることの大切さを痛感しています。皆さんと一緒に、「サヨナラ原発福井ネットワーク」にて、豊かな自然と共存共栄の、原発発社会の実現を目指しましょう。



原子力防災に関して

山崎隆敏

福井の県境に近い滋賀県の谷あいの地域で、年に換算すると3ミリシーベルト/年を超えるところがあるという連絡がありました。大阪府枚方市の市民が公園等で計測したら、0・188マイクロシーベルト/時が出ているという報告も届いて

います。これは1ミリシーベルト/年を超える値です。

福井市でも8マイクロシーベルト/時が降り注いでいた時期があるので、県内でもかなり高い値が出るかもしれません。放射線検知器のバッテリーの故障が直り次第、計測したいと思っています。

ところで「原発が動いている以上、重大事故の際に行政は何もしてくれない。自主避難の準備が必要」という声をよく耳にします。かつて私たちも同じことを言いつつ、検知器を持ち自主防災のネットワーク作りをしました。

ただそれは、ネットワークに連なる少数の選民だけの「ノアの箱舟」になる陥穽もあることは承知していました。しかし、他の手段ではなかなか伝えられない原発事故の現実を実感してもらっためにやむをえない側面もありました。

しかし今やフクシマが現実に取り、原発事故ではどんな防災も役に立たないことを国民が知った以上、そのようなことに時間と労力を費やしてはいけないと私は考えるようになりました。「自分たちだけ助けられよう」というエゴの市民運動では、皆が救われるという普遍的な根本的な解決策（脱原発）を提案してゆけないからです。

チェルノブイリの現実をみても、そもそもこの

事態は「避難」などではなく「移住」なのだ、ドイツの人が言っています。セシウム137の半減期は30年です。雨量も多く傾斜のあるわが国では、海に流れ出る割合も多く、300年を経ずに大地が元に戻るかもしれません。それでも、100年前後は、不毛の地であることには変わりません。60キロ離れた福島や郡山市も、ベラルーシの基準に照らせば本来は「移住」地域なのです。

ともあれ、故郷に戻る日があるかのような幻想を抱かせる「避難」という言葉を使うのは罪深いことです。それに、果たして「移住」の決断が、普通の人々の「自主」判断でできるでしょうか。ベラルーシのように、5ミリシーベルト/年の地域の住民は移住しなさい、と行政が指示しないことで、フクシマの人々は判断がゆれ、不安と不信が増幅しているのです。

どうしても防災にこだわるのなら、たとえば、汚染の広がることが予測される嶺北の大野・池田など積当地帯も含めた全ての県民が「移住」できる計画を国や県は立てなさい、それができぬなら原発の運転をやめなさい、と求めてゆきましょう。米国では、避難計画が不備という理由で隣州が反対し廃炉になった原発もあるのです。



〈お知らせ〉原発勉強会の出前講座

寺院から声がかかることが多くなりました。

9月18日 鯖江市河和田（お寺の主催です）

別科コミュニティセンター

*原発のこと、エネルギーのことわかりやすくお話しします。



ていくことが大切だと思います。
私も微力ですが歩みをすすめていきたいと思っています。

お知らせ

【映画】

◎ドキュメンタリー「チエルノブイリハート」

十一月二十二日～二十五日

会場：メトロ劇場(0776-22-1772)



【学習会&運営委員会】

「サヨナラ原発福井ネットワーク学習会&運営委員会」

十一月二十日(日) 学習会：午後1時30分～/運営委員会：学習会終了後

会場：東別院研修室/福井市花月1丁目2-36

◎内部被ばく・学校給食の汚染に関する資料配布

◎運営委員会は、会員であれば誰でも参加可

【集会・ワークショップなど】

「2011もんじゅを廃炉へ！全国集会」

十二月三日(土)

・抗議集会和原子力機構申し入れ/白木海岸/午前11時

・講演会/敦賀プラザ万象/午後1時30分

・佐藤栄佐久(前福島県知事)海渡雄一(もんじゅ訴訟団弁護士)小林圭二(元京大原子炉実験所講師)

・市中行進/プラザ万象/敦賀駅前/午後3時30分

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

およびシンポジウム「大野から見た若狭・福島」

十二月十八日(日)

会場：大野市学びの里「めいりん」

午後1時30分/映画上映昼の部/午後4時/シンポジウム「大野から見た若狭・福島」若狭の民俗学者・金田久瑠、明通寺・中野哲演

詩人：正津勉(大野出身)/午後6時30分/映画上映夜の部
◎シンポジウムは昼の部、夜の部ともに参加自由
◎入場料：1,000円(制作グループ現代の規制事項です)
高校生以下は無料

山崎氏を講師に、環境アドバイザーの井上氏が、これからのエネルギー問題を考えるワークショップを開催します。

お二人による「福井から世界からみた原発」のミニ講演会
+質疑応答後、10名程のグループにて、あなたのご意見、疑問、質問など、共に語り合います。

十二月十八日(日)ワークショップについて

私(井上)はグローバル・エコを市民大学等で教えてきました。世界的な視野から環境問題を考える必要性を主張してきました。その中には、エネルギー問題も含まれ、原発の危険性や各国の市民活動を紹介し、地域の人たちに声を上げることをお願いしてきました。山崎さんに相談し、市民レベルでエネルギー問題の意見交換をする場を作ろうとなったのでした。

賛同して下さる方がいましたら、ぜひ参加お願いします。

【申し込み】Eメール：xtfmb763@yhb.ne.jp

TEL：090-1394-9114 井上義一

【申し込み締め切り】十二月五日

【開催日時】十二月十八日(日)午前9:30～12:00

【開催場所】福井市研修センター/福井市文京6丁目8-18/TEL 0776-21-1120

【定員】30名(会費)500円

「原子力・エネルギーの安全とあり方を真剣に考える会」

主催の「勉強会」のご案内

若泉征三衆議院議員の秘書と、日本原電の社員で敦賀市議の北条氏と私(山崎)の三人で「勉強会」の構想を打ち合わせました。

「原発を廃止した後、立地自治体の住民も、同じ福井県民



として共に繁栄してほしいと私たち反原発派も願っている。ポスト原発の地域振興というテーマでお互いに話し合いたい」と伝えました。初めてのことで万人が納得できる内容になるかどうか保障はできませんが、ご了承下さい。全体で7回ほどの「勉強会」になり、会費は三〇〇円ですが、私の紹介者に限り一回ごと五〇〇円の参加費でもよいことになりました。会場受付の山崎までお申し出下さい。

第1回/十一月二十三日(水)確定 会場：JR武生駅前
の越前市福祉健康センター

講師：松浦祥次郎……元原子力安全委員会委員長。日本の原子力草創期からの科学者。原子力事故が多大な被害をもたらした事を真摯に国民に陳謝している。

①日本への原子力発電の導入の経緯、原子力のしくみ②原子力安全確保策、その問題点及び今後必要なもの(技術面、社会面、思想面)
第2回/十二月十七日(土)確定

講師：阿部清治……原子力学会原子力安全部長、元原子力安全・保安院審議官、リスク評価が専門。

①福島原発事故の状況・原因・今後必要な安全対策、安全規制の問題点②リスク評価からみた「原子力」
第3回/一月十四日(土)確定

講師：大島堅一……立命館大学教授、原子力コストの第一人者

①電源特会/エネルギー特会の概要②核燃料サイクルの概要と問題点③放射性廃棄物の保管、貯蔵、処理処分計画の概要と問題点④原子力及び他の電源とのコスト比較
第4回/二月中旬で調整中、講演自体は了承

講師：飯田哲也……環境エネルギー政策研究所所長。自然エネルギーの第一人者

①世界及び日本の再生可能エネルギーの普及の経緯と現状、将来予測
問題点②発送配電分離と電力自由化③エネルギー政策の決定過程

山崎隆敏著 小冊子「福井の原発 これまでとこれから」32ページ200円がとて分かり易いと好評です。ぜひお求めください。問い合わせは山崎迄